

続・西部農協管内でトップクラスのプロッコリー生産者をめざすプラン

西伯郡大山町 中原潤一郎

はじめに

- 日頃から地域の農家の高齢化や放置された農地を目の当たりにし、地域の発展に欠かせない農業の後継者不足に不安を感じ、平成17年、5年間勤めた測量会社を辞め、自家の規模を基盤に農業を始めることを決意した。現在 地区でプロッコリー10ha、スイートコーン55aを栽培している。
- 平成20年度にチャレンジプランに取り組み、機械の整備を行い順調に規模の拡大をしてきた。しかし、平成23年度の大雪と秋の2回の台風により定植後のプロッコリーのほとんどが出荷不能となった。そのため、経営が悪化し農舎の建替などの後続プランの続行が不可能となった。
- 平成25年度までになんとか災害前までに経営状態を戻すことに成功し、止まっていたプランの続行を今回行いたい。また規模の拡大をし、プロッコリー生産部会の方針であるエコファーマー認定の取得、GAPの取り組みに伴い新たな課題も見えてきた。
- 地区では、近年、近隣農家から休耕地の耕作依頼が増えている(特に最近は採種畑だった所が多い)為、規模拡大を図ることができてきた。これからも規模拡大に必要な十分な耕作地が得られる可能性がある。
- 農業経営面積の推移

作目	H25	H26
初夏プロッコリー	290a	280a
秋冬プロッコリー	650a	720a(予定)
スイートコーン	30a	55a
計	970a	1055a

1. 農業経営の現状と目標

(1) 経営耕地面積の現状

	地目	面積
所有地	田	143a
	畑	33a
借用地	田	413a
	畑	171a
計		760a

(2) 作物別作付面積の現状

作目	H25年(実績)	H26(実績)
初夏ブロッコリー	290a	280a
秋冬ブロッコリー	650a	720a(予定)
スイートコーン	30a	55a
計	970a	1055a

※生産農産物は全量、JAを通じて販売

(3) 農業機械及び施設の現状

農業機械、設備	性能、その他	導入年
トラクター	23PS、34PS各1台	H14、H21
田植え機	4条 共同所有 1台	H8
コンバイン	3条 1台	H17 中古
米乾燥機	共同所有 1台	H17
軽トラック	家族所有 4台	H15、H5
軽バン	自己所有1台 家族所有1台	H14、H12、H21、H24
ブロードキャスト	1台	H20
管理機	2台	H19、H21
動噴	1台	H21
ビニールハウス	145、160、198㎡ 各1棟	H9、H6、H17
農舎	82、30㎡ 各1棟	S34、S2(H12修繕)
乗用管理機	1台	H22
ブロッコリー定植機	半自動、全自動(リース)各1台	H21、H24

がんばる地域プランを活用し、共同導入した機械

農業機械、設備	性能、その他	導入年
フレールモア	1台	H25
溝掘り機	1台	H25
ブームスプレイヤー	1台	H26

(4) 労働力の現状と5年後

家族名	年齢	経営者との続柄	H25年年間農業従事日数	H31年年間農業従事日数
中原潤一郎	才	本人	300日	250日
	才	妻	200日	200日
	才	父	200日	200日
	才	祖父	20日	0日
	才	祖母	20日	0日
Aさん	才	アルバイト	0日	100日

(5) 将来の農業経営の理念とプラン目標

- 将来の農業経営の理念
  - (1) 農家2世帯の経営の自立を図るモデルとなる。
  - (2) 西部農協管内でトップクラスのプロッコリー生産規模をめざし、経営の安定を図る。
  - (3) 地域の休耕地の解消と農地の維持。
  - (4) 消費者に安心安全な農産物の提供。
  - (5) 自分と同年代又は若い世代の後継者の育成。
  
- プラン目標

作目	H25(実績)	H26	H27	H28	H29	H30(目標)
初夏プロッコリー	290a	280a	280a	290a	290a	300a
秋冬プロッコリー	650a	720a	750a	760a	780a	800a
スイートコーン	30a	55a	60a	60a	60a	60a
水稻	25a	25a	25a	25a	25a	25a
緑肥(ワカコー)	340a	340a	470a	570a	900a	1000a

※ 水稻は自家消費

※ H26 初夏どりプロッコリーは実績値

2. 目標達成のための課題と改善内容

課題

(1) 農家2世帯の経営の自立を図るモデルとなる。

- 2世帯での経営の自立を図るには、今以上の農業所得の向上を図る必要がある。
- 農業所得の向上を図るには、経営規模の拡大、生産性の向上、品質の向上は不可欠である。 地区平均171 ケース/10a、 地区平均143 ケース/10a と、 地区は他の地区に比べ10a 当りの出荷量が少ない。

(2)西部農協管内でトップクラスのブロッコリー生産規模をめざし、経営の安定を図る。

- 近隣農家の要望に応え、経営規模を拡大したいけども、現在の大きさのトラクターや管理機の性能では現状面積以上の農地耕作に対応できない。特にブロッコリーは、1作に最低10回のトラクター中耕が必要であるため面積拡大は困難である。
- 現在ビニールハウスを機械庫と農薬庫として使用しているが、機械が一箇所ではなくバラバラに格納してある為、作業効率が悪くメンテナンスに必要なスペースもない(地面の土からの湿気や温度差などにより機械の劣化が著しい)。農薬は鍵のかかる箱に入れてあるがスペースがない為、整理整頓が満足にできていない。機械庫と農薬庫と育苗に使用しているビニールハウスはH6、H9に建てられたもので、老朽化でいつ倒壊してもおかしくない状態である。
- 現在の出荷・調整を行う作業場所は、元々が牛舎だった為スペースがうまく使えず、作業の効率が満足とは言えない。
- 現在、育苗時の散水や防除に使用する水は家庭用の水道水を使用しているが、500ℓ水を溜めるのに30分以上時間がかかるうえ、年間の水道料金が非常に高い。

(3)地域の休耕地の解消と農地の維持

- 近年、高齢化や後継者不足により 地区、特に 地区の近隣農家から休耕地の耕作依頼の話が増えている。
- 耕作依頼地は、これまで採種畑であった畑が多く1圃場の面積が小さい(10a未満2枚、10a～20a未満4枚)為、作業効率が悪い。

(4)消費者に安心安全な農産物の提供

- ブロッコリー生産部会の方針である減化学肥料栽培をする為に、エコファーマー認定を取得したが、現在ソルゴーを栽培した土づくりが必要になっている。しかし、初夏取りと秋冬取りの年2作栽培した圃場ではソルゴーの栽培は困難である。減化学肥料栽培をする為には、必ずソルゴーを栽培する必要がある為、耕作面積を増やす必要がある。
- 耕作面積を増やしたいが、現状のトラクターや管理機の性能では作業能力に限界があり面積を増やすことが不可能である。(H26年にも耕作依頼が

1haあったが全て断っている)

- 部会としてGAPに取り組んでいるが、作業場所の環境から異物混入のリスクや商品の品質を低下させてしまう恐れがある為、作業場所を整備する必要がある。
- 農薬保管庫を設け、農薬を整備し安全に使用出来る環境を作る必要がある。
  - 有機物を有効に使用した減化学肥料栽培は硝酸態窒素の少ない、おいしいブロッコリーとなるので、消費者の求めるものを提供したい。

#### (5)自分と同年代又は若い世代の後継者の育成

- 地区には自分と同年代又若い世代の後継者がまだ少ない、あと10年先の事を考えると耕作放棄地だらけになるのではと、とても不安である。
- 今の機械庫、農薬庫ではスペースがなく現状の人数での作業でいっぱいであり、研修者の受け入れや地域のモデル農家となることは不可能である。

### 改善内容

#### (1)農家2世帯の経営の自立を図るモデルとなる

- 父と2世帯の経営を分けて、労働時間に応じた給料を支払う。
- 妻も農業に従事する時間が増やせている。
- 忙しい時労力提供をしてもらうためアルバイトを1人雇用し、ゆとりのある農業が実践する。

#### (2)西部農協管内でトップクラスのブロッコリー生産規模をめざし、経営の安定を図る。

- 近隣農家からの耕作依頼に応える為順次、近隣農地を借り上げる。
- 高性能トラクター(キャビン付ハイスピード)48馬力を導入し、現在の34ps、23psのトラクターと合わせて使用することにより、作業能力に応じた専用機として使用することで作業効率が格段に上がり耕作面積を増やすことができる。48psは大区画圃場の耕耘、除草専用。34psは溝掘り機による明渠掘削、小区画圃場の耕耘、除草、高畝栽培用の畝立て専用。23psは元肥施肥、圃場整地専用として使用する。
- 乗用管理機を導入することで、一圃場あたりの管理作業の能率が格段に上がり耕作面積を増やすことができる。また、スイートコーン用、小区画圃場専用として現在の管理機も合わせて使用する。
- 機械庫、農薬庫の新築や作業場所を改築することで、ブロッコリー生産部

会の取り組みである GAP に対応できた衛生的で効率の良い作業環境をつくる事が出来る。

- 機械農薬庫を建てるため、今あるビニールハウスを2棟撤去し新たにビニールハウスを1棟建てる。
- 井戸を設置し農業用水として使用することにより作業効率の向上とコスト削減を行う事が出来る。

#### (3)地域の休耕地の解消と農地の維持

- ブロッコリー、スイートコーン、緑肥(ソルゴー)の規模拡大はほとんどが休耕地を借りての栽培となる為、 地区の農地の荒廃を防ぐことができる。

#### (4)消費者に安心安全な農産物の提供

- 減化学肥料栽培を行い環境にやさしい農業を実践する。
- 緑肥ソルゴーを使った土づくりを行いブロッコリーの品質向上に努める。
- 有機質肥料を使用した栽培をすることで、硝酸態窒素を減らし、よりおいしいブロッコリーを消費者に届けることができる。

#### (5)自分と同年代又は若い世代の後継者の育成

- チャンスがあれば就農したいと考えている同世代が周囲に多くいるので、研修者受け入れ、農業体験の場の提供を行う。会社を辞めて就農したいがどうすればよいか。と、話を聞きに来た人もいるので、そういった就農したい気持ちの強い同世代の人の後押しをしたい。
- 大山町では就農希望者への研修等の支援として、アグリマイスター協議会を設立しており、希望者を受け入れ後押しが出来るようにマイスターとして認定を取得している。

### 効果

- 西部農協管内で最大規模の栽培面積をほこる農家として地域のモデルとなる。
- 耕作依頼に応え、休耕地を活用することにより、耕作放棄地の発生を未然に防ぎ、地域の農地環境の維持に貢献できる。
- この経験を活かし、自分と同年代の若い人たちに農業の良さを伝え、就農の手助けができる。同年代の農業従事者を増やすことで、お互いに高めあいながら自己意識の向上、技術の向上を図り、地域の活性になる。

### 3. 具体的な取り組みと役割分担

取り組む項目	H26	H27	H28	H29	実施主体、負担者等
借用地の規模拡大	○				本人、町
機械庫、農薬庫の建設(105㎡)		◎			本人、県、町
井戸の設置			◎		本人、県、町
中古ビニールハウスの建設		○			本人
農舎の改築(82㎡)			◎		本人、県、町
乗用管理機の導入				◎	本人、県、町
トラクターの導入(キャビン付ハイスピード48ps)				◎	本人、県、町
研修者の受け入れ、農業体験の場の提供	←—————→ 随時対応				本人

※ ◎は本事業を活用。

※ 自己負担分は近代化資金を活用予定。

### 4. 支援事業の内容

- 支援事業費

	事業費	年度	負担区分
機械庫、農薬庫の建設	8400000	H27	県 1/3 町 1/6
井戸の設置	2394700	H28	
農舎の改築	3270000	H28	本人 1/2
乗用管理機の導入	2464452	H29	
トラクターの導入 キャビン付ハイスピード 48ps 導入	6692760	H29	
合計	23221912		